



子育て伴走「そげだがあ」通信 No. 6 ～みんな大切 笑顔あふれる家庭と保育園に～



R 4 . 1 1 . 1 1 やすぎ保育園園長 福島朗博

◆ 11月の園風景から

秋も深まり、日が暮れるのが早くなりましたが、夕方の園庭を眺めるひそかな楽しみがあります。「あの子がほしい♪」「この子がほしい♪相談しよう♪」と、今日も園児が列を組んで『花いちもんめ』で遊んでいる様は、ほのぼのする光景です。たいがい女の子が圧倒的多数ですが、たまに一人二人くらい男の子が混じってジャンケンする姿を見かけると、「お!？」とついこちらも身を乗り出して始終見守っています。昔わらべ歌は今の子どもたちも引き付けてやまないものなんだと妙に嬉しく、そして手をつないで遊ぶ子どもたちが愛おしく感じられるこの頃です。



こころバースデー講座♡「いのちの大切さを伝えたい」♡

島根県助産師会バースデープロジェクトより助産師さんによる出前講座「いのちの楽習会」を行いました。

講座の対象は、そら組（4・5歳児）さんとつき組（3歳児）さん。それに、7名の保護者さんが参加くださいました。助産師さんに「誕生日を迎えると嬉しいね。どうして嬉しい？」と聞かれて、園児たちは「大きくなって、家族から嬉しいなと祝ってもらえるから。」と口々に答えていました。

胎児ができる仕組みや産まれる様子を手作りの紙芝居で示しながら、「みんなの体にはプライベートな大切な部分があること」を伝えた後、お腹の中に宿った赤ちゃんが胎内で大きくなっていく様子を人形（キューピーちゃん）で表したり、胎児の心音をCDで、また園児の実際の心音を特殊な機器で胸に当てて聴いたり（生きている！ことが伝わってくる大きな音でしたね。びっくり涙目になる子もいました。）しました。クライマックスは寸劇による出産シーンの誕生です。周囲の人たちの祈る気持ちに園児たちのじっと息を凝らす様子が、赤ちゃん誕生の喜びとともに和らいでいくようでした。最後に、実物大（重さも）の赤ちゃん人形を抱いてみせたりして、みんなに祝福されて生まれてきたことや自分や友だちの尊い命を大切にしていけることを学ぶことができた1時間でした。



講座の後では、出席された7名の保護者さんと助産師さんで輪になり座談会をしました。まず始めに助産師の田中さんと中山さんよりこの講座の趣旨について説明がありました。「この出前講座を始めて21年になります。きっかけは、命を粗末にする事件が起こる度に心を痛み、何とか命の大切さを伝えたいとお母さん方のコミュニティで始めたことです。そこから保育園や幼稚園、そして小中高や老人ホームへと広がっていきました。繰り返し伝えていくことを目的とし、子どもの年齢に合った理解の仕方をしてもらえるようにと考えて工夫しています。」

以下は、参加された保護者さんの感想です。「上のきょうだいが中学生で何回か参加しているが、赤ちゃんが通る道のことや帝王切開のことは初めて聞いた。このようなことを教えてもらえることが嬉しかった。」「子どもの心音を聞いて、『生きているんだなあ』と思うと涙が出た。生きていることがわかるし、良い経験だと思った。」「わが子は早産だったので、赤ちゃん人形（実物大）を抱っこして重たいと感じた。」「子どもの頃、どうやって産まれてきたのか、

園長だよりバックナンバー
こちらです ⇒



親に聞いたことがあったのを思い出した。」「いま上の子が反抗期だが、みんなに大切にされていることを感じてほしいと思う。」「出産シーンを見て、二日ばかりで大変だった自分の出産時のことを思い出した。」「子どもに質問された時に応えられるよう、お話が聞けてよかった。」「妻はつわりがひどくて仕事も休まざるをえなくて大変だったが、夫婦で協力していった。いろいろあったが、今幸せを感じている。妻にも感謝している。」「コロナ禍での出産で、立ち合い出産が直前のみになり、入院中のお見舞いも淋しい思いをしたことを思い出した。」「(都合が悪くなった)妻の代役で渋々参加したが、そんな自分を反省した。上の子は育児にあまり参加しなかったが、3番目で助け合っていくことの大切さを感じた。性のことは恥ずかしいことと思ってしまうが、帰って妻にも報告したいと思う。」⇒このことに助産師さんからも「子どもを育てることは自分自身の成長につながる。自分の夫も一人目二人目と次第にできることが増え、三人目のときには一人で面倒が見れるようになった。」と温かいエールをいただきました。

座談会が終わった後も、あるお父さんの思春期を迎えた娘との対応についてお悩み相談が始まり、皆さんと一緒に考えてくれて、また花が咲いたように盛り上がっていました。

ところで、やすぎ保育園が現在の社会福祉法人になる前は、キリスト教系列の保育園でした。園で月1回行っている誕生会の内容は、その名残によるもので、一堂に集まり0歳から年長児さんまでどの子もみんなで『誕生という生まれたこと』を祝い喜びあう儀式を伝統として今も大切に受け継いでいます。主役の園児には職員の手作りによる冠(かんむり)やメッセージカードが贈られて保護者に祝福の抱っこを受けるところが最高潮となり、最後に主役がろうそくの火を消すことで会が閉じられる一連の流れに、「生まれてよかったね。」と毎回会場が温かい気持ちで包まれます。



本園の卒園児で1歳の誕生のお祝い以来、5つの冠を今も大切にしているという保護者さんのお話を聞くことがあり、嬉しく思います。かぶる頭の大きさがそれぞれに異なる冠の並んでいる様子が我が子の成長の証にもなっているのですね。

「生まれてきてくれてありがとう。」今回の講座では、**みんなに祝福され愛されて今の自分がある**ことを知る(きちんと言葉で)ことで**生きていくことの大切な自己肯定感**をもち、「ここまで育ててくれてありがとう。」と感謝の気持ちが感じられていくこと、自分の体を大切にしていけることが、友だちの体も同じように大切にすることにつながっていくことを思いました。

最後に、絵本『いのちのまつりヌチヌグスージ』(草場一壽作 サンマーク出版社)より、オバアと主役コウちゃんの会話のやりとりを紹介します。・・・「いのちは目に見えないけれど、ずっとずっと、つながって行くのさあ〜。」「へえー、ぼくのいのちってすごいんだね。」



後日に助産師さんよりいただきました

園長の

ことば・子育て相談会

次回は11月12日(土) 12月3日(土)に行います
ご希望の方は平日でもお受けしますので、遠慮なく連絡ください